

## 令和7年度 実務経験のある教員による授業科目一覧

九州栄養福祉大学

本年度の更新確認申請にあたって以下の科目と教員を実務家教員として申請します。「授業の概要」については各科目の「授業計画書」の「概要」欄を転載したものです。

### 1. 食物栄養学部 食物栄養学科

授業科目	担当教員	単位数	授業の概要(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
健康管理概論	寶珠山 務	2	<p>少子高齢化社会において人々の保健福祉領域への関心はさらに高まっている。管理栄養士に求められる健康管理の基礎として、本講では、がん、生活習慣病、感染症、メンタルヘルス等の主要な疾病の概要とその対処、健康の評価と開発の具体的方法、信頼性の高い文献や統計情報の活用、疫学研究的概要などを解説する。各項目に関連した国家試験問題も紹介したい。</p> <p>筆者は内科一般の臨床実務に携わって10年以上になるが、急性期から慢性期における対応、医療と介護の境界領域での対応などを通して、医療技術の向上と高齢化の急進を時代背景に、複数の専門職からなるチーム編成とその活用が求められていることを実感している。本講義では、教科書やウェブ情報を分かりやすく解説するとともに、行間に込められた史実や本質にも触れることで、学生諸君の知的関心をさらに掻き立てられたら幸いと考える。</p>
栄養教育論 I	林田 智子	2	<p>栄養教育は、管理栄養士・栄養士にとって専門性を発揮して行なう業務そのものである。管理栄養士としての使命感、職業観を育み、健康の維持・増進ならびに傷病者の治療を目的とする食生活の指導ができるように、栄養教育に必要な基礎的知識と技能について、実際に即して学習する。</p> <p>また現代社会の食環境を踏まえ、必要とされている栄養教育の課題を理解し、栄養教育計画の立案ができることを目的とし、その実践が栄養教育論実習において展開できるよう連携していく。</p> <p>この講義では、行政栄養士としての職務経験を有する教員が、実際の市民への栄養教育について紹介し、実践に活かせる方法について学習する。</p> <p>授業は、教科書をもとに構成し、さまざまな資料を加筆し、スライドを用いてわかりやすく説明、解説をして進めていく。</p>

			<p>一方的な講義にならにように、学生自身の理解や考えを発表してもらいながら講義を進めていく。</p>
<p>栄養教育論Ⅱ</p>	<p>林田 智子</p>	<p>2</p>	<p>「栄養教育論Ⅰ」の学習内容をふまえ、ライフステージ・ライフスタイルの栄養の特性に応じた栄養教育の特徴と留意事項を学習する。</p> <p>この講義では、行政栄養士としての職務経験を有する教員が、実際の市民への栄養教育について紹介し、その中で、個人または団体の改善計画の立案、栄養教育の実施に必要な知識を習得し、健康増進、疾病の発症予防、重症化予防、治療に貢献することをめざす。</p> <p>また現在必要とされている栄養教育の課題を理解し、栄養教育計画の立案ができることを目的とする。その実践が栄養士・管理栄養士の現場において展開できるよう連携していく。</p> <p>授業は、教科書にそってスライド及び当日配付の資料により説明、解説をして進めていく。</p> <p>一方的な講義にならにように、学生自身の理解や考えを発表してもらいながら講義を進めていく。</p>
<p>応用栄養学Ⅰ</p>	<p>池本 美智子</p>	<p>2</p>	<p>栄養アセスメントが出来ることは栄養管理の基本となる。栄養アセスメントの意義・目的を理解し、健常者における栄養アセスメントの第1歩として食事摂取基準を学ぶ。これをふまえてのライフステージ別の栄養管理の理解となる。この講義では、病院管理栄養士経験を有する教員が、母体、及び胎児期から成長期までの各ライフステージ（妊娠期・授乳期、乳児期、幼児期、学童期）における成長、発達に伴う生理機能の変化や栄養状態の変化などについて講義し、教室内での討議を組み込みながら学びを深めていく。</p>
<p>実践臨床栄養学</p>	<p>池本 美智子</p>	<p>2</p>	<p>この講義では、すでに履修した「臨床栄養学Ⅰ」、「臨床栄養学Ⅱ」、「臨床栄養学Ⅲ」の知識をもとに、免疫疾患、および食物とアレルギーについて理解を深めるとともに、保育所、学校、病院、行政等における実践的対応を身につける。併せてその他のさまざまな症例について、症例を読み取る力を養い、管理栄養士としての実践力向上に繋げる。</p> <p>特に、食べ物により重篤な症状を呈することのある食物アレルギーについて深く理解しておくことは管理栄養士として重要である。食物アレルギーの症状、診断法、治療法、除去食療法などなどの実際について学習するとともに、それ以外の症例についても問題点を見いだし適切な栄養管理ができる力を養う。本講義では、病院管理栄養士経験を有し、かつ、アレルギー専門病院での職務経験も有する教員が、食物アレルギーについて</p>

			講義し、さまざまな疾患の症例検討を重ねていく中で管理栄養士としての実践力を養う。
公衆栄養学 I	大村 美智子	2	公衆栄養学は、人間集団を観測対象とし、食べ物を主な要素とする栄養学である。ヒトの健康問題がどの因子に基づくものであるのか、その問題解決のためにはどのようにすべきかを解明して、疾病予防・健康増進を図るものである。 日本人がかかえている疾病の多くは、栄養素の不適切な摂取が原因で起こる生活習慣病の乱れによるものが多いことから、取り巻く環境・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集し・分析し、総合的に評価・判定する能力を養成する。また、地域公衆栄養活動を展開するうえでの理論と実際についても考察する。公衆栄養活動に長年にわたり携わっていた教員が法に基づき、国からの通知通達で事業を展開するために常にやっている PDCA サイクルに基づいた事業ができるようにするために、グループディスカッションを取り入れながら、課題の抽出企画立案実施評価ができるようにする
給食管理	中野 眞弓	2	特定給食施設利用者への具体的な「栄養・食事管理」と「経営管理」を中心に学修し、計画・調理・サービスを行うために必要な給食業務全般を総合的にマネジメントできる能力を修得する。さらに関連法規、給食施設の種類や特徴等を把握し、給食経営管理の遂行に不可欠な基礎知識を学ぶ。本授業では事業部給食課、社会福祉施設等での勤務実績を基に給食管理全般を円滑に管理経営するための基本的な知識・技術について実務に沿った講義を行う。
合計単位数：14 単位			

## 2. 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

授業科目	担当教員	単位数	授業の概要(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
データ解析基礎	猿澤 雄一	2	データ解析の基礎講義では、探索的データ解析 (EDA) のプロセスと、その構成要素について学ぶ。 本講義では、AI を活用したサービス開発・提供を行っている上場 IT 企業に勤務する教員が、データの種類、特性、EDA のプロセス、要約統計、基本的な統計モデルとデータ分布に焦点を当てる。線形回帰、分類、クラスタリングの概念を紹介し、データから意味ある情報を抽出するための基本的なアプローチを学ぶ。これらを通してデータ駆動形の知識発見と意思決定の重要性を理解することを目的とする。
ニューラルネットワーク基礎	猿澤 雄一	2	本科目では、AI を活用したサービス開発・提供を行っている上場 IT 企業に勤務する教員が、ニューラルネットワークの基

			<p>本原理について講義する。モデルニューロン、活性化関数、層構造の概念を学び、単純な 2 層ニューラルネットワークの構築と学習過程を学習する。またバックプロパゲーションと勾配降下法の基礎を紹介し、基本的なモデル評価とチューニング方法についても学ぶ。さらに畳み込みニューラルネットワーク等の深層学習の基本を理解する。</p>
食農健康データサイエンス	猿澤 雄一	2	<p>本科目は、食と健康、福祉、農業の各分野における現実の問題を取り上げ、データサイエンスの視点から課題を共有し、解決策を模索するケーススタディ科目である。これらの分野における具体的な問題を提示し、現場の声や悩みを共有した上で、収集すべきデータ、問題の本質の特定、有効な解決策の発見に向けたディスカッションを行う。データサイエンスを用いた農業事業へ携わる上場 IT 企業に勤務する教員が、実際のケーススタディを通じて、データ駆動型の問題解決アプローチを学び、実践的な知識と技能を養う。</p>
先端 AI 論	猿澤 雄一	2	<p>「先端 AI 特論」では、上場 IT 企業で勤務する教員が、IT 産業で活躍する専門家を招き、最先端の AI 開発とその応用に関する講演を聴く。この科目では、現場での AI の最新動向、開発手法、応用事例に焦点を当て、学生が大学で学んだ AI・機械学習の知識と最先端の AI 技術との関連を理解する。現実世界の AI プロジェクトや業界の事例を通じて、理論と実践のギャップを埋め、最新技術の応用可能性を探る。実際の産業界での AI の利用事例と課題についてのディスカッションを通じて、学生は先端技術の実践的な知識と理解を深める。</p>
サプライチェーンマネジメント学	村井 慶史 中野 達彦 清川 隼矢 千住 和久 小崎 竜也	2	<p>農作物のサプライチェーンマネジメントについて学びます。サプライチェーンは、生産から消費までの一連のプロセスを指し、これには生産、収穫、加工、パッケージング、輸送、販売が含まれます。この講義では、アグリビジネスを企画・運営する上場 IT 企業に勤務する教員が、これらの各ステップでの効率的な管理方法と、サプライチェーン全体の最適化について学びます。また、サプライチェーンの持続可能性と、気候変動への対応方法についても議論します。</p>
アグリビジネスマネジメント学	村井 慶史 中野 達彦 清川 隼矢 千住 和久 小崎 竜也	2	<p>本科目ではアグリビジネスを企画、運営する上場 IT 企業に勤務する教員が、農業経営の基本的な概念と理論を講義します。農業の生産性、効率性、持続可能性を向上させるための戦略と技術を探求します。また、農業政策、市場動向、気候変動など、農業経営に影響を与える外部要因についても考察します。この講義を通じて、学生は農業経営の課題と可能性を理解し、実践的なスキルを習得します。理論と実践のバランスを取りなが</p>

			ら、農業経営の成功に必要な知識と技術を深めていきます。
アントプレナー論	村井 慶史 中野 達彦 清川 隼矢 千住 和久 小崎 竜也	2	本講義では上場 IT 企業で様々な事業の立ち上げ・企画・開発を担当する教員から新規事業立ち上げの全過程を学びます。市場調査から始め、競合分析、ターゲット顧客の特定、ビジネスモデルの開発、そして事業計画の作成までをカバーします。さらに、資金調達戦略、マーケティングと販売戦略、そして事業の運営と成長についても学びます。この講義を通じて、学生は理論的な知識だけでなく、実践的なスキルも身につけることができます。具体的な事例を通じて、新規事業立ち上げの成功と失敗について学び、自身のビジネスアイデアを形にするための具体的なステップを理解します。
			合計単位数：14 単位

### 3. リハビリテーション学部 理学療法学科

授業科目	担当教員	単位数	授業の概要(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
北九州市のノーマライゼーション (学部共通開設)	宮永 敬市	2	リハビリテーション学部の教育目標として、年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れたところで、心豊かに、安心して暮らせる地域づくりに寄与することが掲げられている。 本講義では地域リハビリテーション推進課に勤務する教員が、ノーマライゼーションの実現に向けた北九州市の保健・福祉の取り組みを幅広く紹介し、健康と福祉の促進について、北九州市の取り組みを現地で学ぶ。授業形態は講義である。
医療人のための教育学 I (学部共通開設)	岡井 正義	2	この授業では長年小学校・中学校校長としての勤務歴を有する教員が、将来、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、現場で出会うことが予想される患者としての子供やその保護者、患者に提供するリハビリテーションをチームで行うために医師や看護師、同僚の療法士などとよりよい人間関係を築くための具体的方途を体験的に学ぶ。
医学倫理学 (学部共通開設)	石橋 敏郎	2	保健医療福祉の分野で求められているチーム医療では、異なる職種が協力して有効な保健医療サービスを提供することが求められている。そのためには職種間の対話と理解が不可欠であり、確かな知識や方法を共有しておくべきである。 病院での臨床経験を有する教員が、医学倫理学の基礎を理解・修得できるように、総論と各論に分けて 15 講に区切り、レビュー (基礎的な情報) とケーススタディ (架空事例などの提示) の 2 つの部分を参考にして講義を進めていく。 受講する前にテキストを必ず読み、事前と事後の学習を自ら進んで取り組むように努力してください。
運動学 II (学部)	石橋 敏郎	2	九州労災病院リハビリテーション診療科での臨床経験を有す

共通開設)			る教員が、身体各部の主要関節における身体運動の特徴を捉えるために、局所的な機能解剖に基づいた各関節の運動学的・運動力学的機能を理解する。さらに、正常な機能を把握した上で、疾病などにより異常な状態になった場合の正確な捉え方と改善方法について講義する。授業形態は講義である。
臨床医学とリハビリテーション (学部共通開設)	中島 信能 石田 力大 花栗 誠 森田 啓文 安達 保尋 久保 理枝 戸田 晶久 宮副 浩司 津田 徹	2	リハビリテーションを進める上で、臨床医学領域に関心を持ち、幅広く理解することは、疾病の発症・再発・重症化の予防ならびに障害による活動制限・参加制約といった状態から生じる廃用症候群やフレイルなどを予防・改善する観点からも重要である。このため、臨床で経験する頻度が高い疾患の病態や障害像を診療科別に講義する。また、理学療法や作業療法を行う際の重要なリスク管理情報である、画像診断・検査や薬理、予防の基礎などについても講義を行なう。講師は、病院等で勤務する現役の医師、看護師、薬剤師、放射線技師、理学療法士がオムニバス形式で行なう。
高齢期理学療法学	長野 友彦	2	複数の多様な問題を抱える高齢者の理学療法においては、高齢者の諸問題を包括的な視点から捉え、機能向上だけでなく、予防の視点も含めた多角的なアプローチが重要である。本授業では、リハビリテーション病院で長年の人証経験を有する教員が、高齢者に対する理学療法を実践するにあたり、特に十分な理解が必要と考えられる内容に重きを置いて学修する。授業形態は講義である。
生活環境論	吉田 遊子 松崎 英章	2	高齢者や障害者もそうでない人と同様に様々な生活環境 (人的・物的・社会的) のもとでその人らしく生活を営む権利を持っている。そのような社会がごく普通の社会であり、このような考え方がノーマライゼーションとしての理念であり、リハビリテーション医療の原点となっている。本授業では、総合病院リハビリテーション部やリハビリセンターで実務経験のある教員が、高齢者や障害者へ様々な生活環境としての支援の在り方、理学療法士としての係わり方、そのために必要となる基本的な知識と技術を教授する。
合計単位数 : 14 単位			

#### 4. リハビリテーション学部 作業療法学科

授業科目	担当教員	単位数	授業の概要 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
北九州市のノーマライゼーション (学部共通開設)	宮永 敬市	2	リハビリテーション学部の教育目標として、年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れたところで、心豊かに、安心して暮らせる地域づくりに寄与することが掲げられている。 本講義では地域リハビリテーション推進課に勤務する教員が、

			ノーマライゼーションの実現に向けた北九州市の保健・福祉の取り組みを幅広く紹介し、健康と福祉の促進について、北九州市の取り組みを現地で学ぶ。授業形態は講義である。
医療人のための教育学Ⅰ (学部共通開設)	岡井 正義	2	この授業では長年小学校・中学校校長としての勤務歴を有する教員が、将来、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、現場で出会うことが予想される患者としての子供やその保護者、患者に提供するリハビリテーションをチームで行うために医師や看護師、同僚の療法士などによりよい人間関係を築くための具体的方途を体験的に学ぶ。
医学倫理学 (学部共通開設)	石橋 敏郎	2	保健医療福祉の分野で求められているチーム医療では、異なる職種が協力して有効な保健医療サービスを提供することが求められている。そのためには職種間の対話と理解が不可欠であり、確かな知識や方法を共有しておくべきである。 病院での臨床経験を有する教員が、医学倫理学の基礎を理解・修得できるように、総論と各論に分けて15講に区切り、レビュー(基礎的な情報)とケーススタディ(架空事例などの提示)の2つの部分を参考にして講義を進めていく。 受講する前にテキストを必ず読み、事前と事後の学習を自ら進んで取り組むように努力してください。
運動学Ⅱ (学部共通開設)	石橋 敏郎	2	九州労災病院リハビリテーション診療科での臨床経験を有する教員が、身体各部の主要関節における身体運動の特徴を捉えるために、局所的な機能解剖に基づいた各関節の運動学的・運動力学的機能を理解する。さらに、正常な機能を把握した上で、疾病などにより異常な状態になった場合の正確な捉え方と改善方法について講義する。授業形態は講義である。
臨床医学とリハビリテーション (学部共通開設)	中島 信能 石田 力大 花栗 誠 森田 啓文 安達 保尋 久保 理枝 戸田 晶久 宮副 浩司 津田 徹	2	リハビリテーションを進める上で、臨床医学領域に関心を持ち、幅広く理解することは、疾病の発症・再発・重症化の予防ならびに障害による活動制限・参加制約といった状態から生じる廃用症候群やフレイルなどを予防・改善する観点からも重要である。このため、臨床で経験する頻度が高い疾患の病態や障害像を診療科別に講義する。また、理学療法や作業療法を行う際の重要なリスク管理情報である、画像診断・検査や薬理、予防の基礎などについても講義を行なう。講師は、病院等で勤務する現役の医師、看護師、薬剤師、放射線技師、理学療法士がオムニバス形式で行なう。
作業療法学概論	四元 孝道 青山 克実	2	作業療法とは何かについて、その歴史や原理について長年の臨床経験を有する実務家教員によるより具体的な作業療法を総合的・体系的に概説する。また、対象となる身体機能分野、高齢期分野、精神機能分野、発達課程分野の作業療法実践過程に

			ついて理解を深め、作業療法の範囲や役割について考察する。加えて、医療人としてリハビリテーションにおける作業療法士の資質について検討する。
地域作業療法 学	四元 孝道 青山 克実	2	この講義では、地域作業療法の実務経験のある教員が教授する。 病気や障害があつて地域でその人らしく暮らすには医療保健福祉教育の連携と多職種連携が必要である。そのために必要となる基礎知識と事例を通して関わり方のポイントについて講義し、地域で活動できる作業療法士を目指す。授業形態は講義である。
			合計単位数：14 単位

### 5. こども教育学部 こども教育学科

授業科目	担当教員	単位数	授業の概要(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
領域のねらい	木本 節子	2	<p>幼児教育は園生活全体を通して総合的に指導することを理解し、特に幼稚園教育要領・保育所保育指針の30年度改訂ポイントである資質・能力の三つの柱—中略—の理念を学び、幼児期と児童期の教育課程・指導方法の違いを理解する。</p> <p>又、「乳児期のねらい及び内容」は発達の特徴を踏まえ5領域ではなく3つの視点 WHO の定義を引用すると「身体的・社会的・精神的」から編成されていることを理解する。特に乳児から2歳児までは、心身の発達の基礎が形成される上で極めて重要な時期であることを踏まえて幼稚園教育の基本を学び、五領域のねらいと内容及び環境構成の位置づけを担当教員のオリジナル資料「筑紫の心と保育展開—五領域(心情・意欲・態度)の内容と内容の取り扱いの位置づけ—」を活用し、本学の建学の精神「よいこのところはちくしのこのころ」と五領域の関連性について解説する。</p> <p>その学びが「幼・保・小の架け橋プログラム」へとつながり、小学校との円滑な接続期にふさわしい活動の在り方「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)や「インクルーシブ保育のあり方」などが「育ちと学びの架け橋」となるような授業を展開していく。幼稚園園長としてこの目的を達成するために、担当者が製作した絵本「学園の一本のすももの木」や「みんなおともだち」を教科書として取り入れ、総合的指導(総合学習)についてより理解を深める。(地域の人材活用としてゲストティーチャーが一部参加予定である)</p>
算数	前川 公一	2	算数科教育では、数学的な見方・考え方を働かせ、学習した内容を生活や学習に活用するための数学的な資質・能力を育成す

			<p>ることをねらいとしている。そこで、算数科教育を実施するに当たり必要となる算数科の目標・指導内容・指導方法・評価に関する基礎的知識と基本的技能について講義する。特に、小学校教諭として長年の勤務実績を踏まえ、算数科の現行学習指導要領の概要、算数科の5領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）の教育内容と児童の認識特性、ICTの活用等について理解を深めるようにする。</p>
理科	花島 秀樹	2	<p>現在の日本の学校教育で求められている教育実践とは何かを理解することである。もう一つは、次々に登場する教育に関する流行に踊らされることなく、さまざまな教育実践や教育学研究の成果に学びながら、「よい理科授業」をつくるための基盤を作ることである。</p> <p>以上の二つのねらいを達成するために、本授業では、教育方法（主に授業づくりと授業分析）に関する基礎的な知識や近年の学校教育に期待される役割について学んでもらうと同時に、教育について多様な観点から批判的に考えることにチャレンジしてもらおう。そのため本授業は、教員による講義と、学生自身が取り組むアクティブラーニングによって展開していく。</p> <p>本授業では、理科教諭や教育委員会における理科の指導主事経験を生かして、理科授業を構想する力と指導スキルの向上、実践と理論との往還を目指す。</p>
家庭	内本 郁美	2	<p>平成29年に改訂された『小学校学習指導要領【家庭編】』では「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」が家庭科教育の三つの柱とされている。本授業では、小学校教諭として家庭科教育に携わってきた教員が、各項目について学習指導要領を踏まえながら小学校家庭科のねらいについて総合的に理解することを目指す。この目的のために、指導要領にあるように「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」を育成するため、他の小学校科目とのつながりだけでなく、実技実習なども効果的に取り入れ、児童のよりよい学びについて考察する。また、本学では幼稚園教諭一種免許状や保育士資格も取得できることから、これらの教育内容とのつながりについても触れることとする。</p>
社会福祉	田中 文佳	2	<p>社会福祉士として自治体での勤務経験を有する教員が、社会保障の意義と制度の概要、現代社会の社会福祉の課題について講義する。目まぐるしく変化する社会状況と山積する様々な生活課題に触れ、利用者支援の理念と実際について学習する。また、こどもを取り巻く環境とともに、こども家庭支援の課題と今後の取り組みについても理</p>

			解を深める。様々な視聴覚教材、新聞、ニュース等の資料を活用した授業を通して、社会福祉の現状と課題への意識化を目指していく。
特別支援教育 概論	山田 俊之	2	<p>本授業は教員免許状取得のための必修科目であり、長年インクルーシブ教育に携わり、ボディパーカッション教育などを開発してきた教員による、特別の支援を必要とする幼児児童生徒への教育の基礎的理解に関する科目である。</p> <p>日本の特別支援教育の歴史を学び、現在につながるインクルーシブ教育の重要性を学び、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害（「視覚障害」「聴覚障害」「発達障害（自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・）」「発達障害（学習障害・グレーゾーン）」「言語障害」「吃音」、「場面緘黙」）の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>特別支援が必要な児童生徒が健常者と共に学習や生活できるためのインクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解できるようにする。発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解していく。</p> <p>「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解し、特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。さらには、特別支援教育コーディネーターの必要性を理解できるようにする。</p> <p>母国語や貧困や家庭の状況の問題、国籍、文化、習慣の違い等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性から、21世紀において不可欠の教養である「ダイバーシティ・インクルージョン社会」のあり方を理解していく。</p>
特別活動指導 論	脇田 哲郎	2	<p>小学校教諭・校長として特別活動に注力してきた教員による授業。特別活動の教育課程上の位置付けや「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という視点と特別活動で育成する資質・能力との関係や各活動・学校行事の学習過程や特質に応じた指導方法について理解する。特に、特別活動の核となる学級活動(1)の合意形成する授業づくりや学級活動(2)(3)の意思決定する授業づくりについてプランニングシートを活用して主体的、対話的で深い学びができるようにする。</p>
			合計単位数：14 単位